

前日本科学技術ジャーナリスト会議会長・元読売新聞編集委員

小出重幸

# クラウドファンディング



コンゴ民主共和国の研究者にエボラ診断キットを渡す高田教授



ザンビアで調査をする高田教授たち



「エボラ出血熱治療薬開発」クラウドファンディングHP  
<https://readyfor.jp/projects/Ebola>

「科学者を志す高校生が、素粒子サマーキャンプに参加するための旅費を、支援いただけませんか？」

つくば市にある素粒子物理学の拠点、「高エネルギー加速器研究機構（KEK）」が2017年6月、インターネッ

トを通して呼びかけた「クラウドファンディング」は、7月10日までの40日間に、目標額（80万円）の二倍を超える、197万円が集まり、高校生キャンプの成功に結びつきました。

奈良時代、大仏建立のため全国津々浦々に献金を募つてきた状況だったので。

とくに、研究費が先細りの科学研究分野でも拡大しており、成功例のひとつが、KEKのファンディングでした。ノーベル賞受賞者を輩出しているKEKでも、全国から20数人の高校生を集めて、3泊4日の実験教室を開く80万円の資金すら、こ

物理学者たちは意外な成功を喜んだのですが、資金調達以上に意義が大きかったのは、市民と研究者たちとのコミュニケーションのプラットフォームができたことでした。

今年、最も成功した例のひとつが、北海道大学・人獣共通感染症リサーチセンターの高田礼人教授ら呼びかけた、「エボラ出血熱治療薬開発」プロジェクトです。

致死亡率90%にも及ぶ重篤な感染症で、西アフリカを中心に流行がおさまらず、各国への拡

大が心配されています。高田教授らの呼びかけに、当初目標の4倍を超える1236万円が集まり、高田教授らが開発した治療薬の効果を確かめる試験が、大きな規模で展開できることになりました。

9月10日（火）に東京・大手町で開かれる「サイエンス読書カフェ」には、「ウイルスは悪者か」（亜紀書房）の著者でもある、高田教授が登場します。



小出重幸（こいで しげゆき）  
1951年東京生まれ。科学ジャーナリスト。北海道大学理学部卒。政策研究大学院大学（GRIPS）客員研究員。昭和薬科大学講師。よみうり大手町スクールで「サイエンス読書カフェ」の店主を務めている。